

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》○浅野雅子 岩瀬義昭 鎌田樹寛 本家寿洋 坂上哲可 浅野葉子 朝日まどか 木村恵 児玉壮志 桜庭聡

【概 要】

本実習では、評価実習の経験を踏まえ、臨床実習指導者のもとで、対象者の生活支援に必要な情報を収集し、情報の整理・統合・解釈を通して、対象者に有効な作業療法計画立案を経験する。さらに、学生が実施可能な作業療法の治療経験を通じ、作業療法士としての資質を高めることを目的とする。

【学習目標】

作業療法学生として適切な態度をとりながら、対象者に対して初期評価を行い、基本的な作業療法計画を立案することができる。

1. 作業療法学生として責任ある態度、行動をとることができる
2. 評価実習の経験をもとに、基本的な評価を実施することができる
3. 臨床実習指導者の指導のもと、基本的な治療計画を立案することができる

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
	オリエンテーション	総合臨床実習の目的やその内容を理解する	担当者全員
	臨地実習	医療機関において実習を行う	臨床実習指導者
	セミナー	学生各々が総合臨床実習で経験したことをまとめ、サマリー発表を行う 実習で学んだ事を共有し、学びを深める	担当者全員

【評価方法】

臨床実習指導者評価60%、各種提出物およびセミナー発表内容40%で判断する。

【備 考】

その他：「臨床実習の手引き」を配布する。

【学習の準備】

- ・「臨床実習の手引き」を熟読し、必要な準備を行うこと
- ・日頃の講義・演習の時間を十分に活用すること
- ・オリエンテーションには必ず出席すること

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP1) 人は人の中でこそ人として生きていけます。お互いがお互いの命や生きることを大切に思える心と感性、そのために必要な幅広い教養、そしてそれを対象者と共有することのできるコミュニケーションを身につけます。

(DP2) 近代医療は“チーム医療”がとても重要です。各医療職の専門性はますます進化していきますので、今後さらに“チーム医療力”が病院・施設などの“臨床力”として特に重要になります。自分の職種と他の職種のそれぞれの役割と専門性をきちんと理解し、患者と家族をチーム医療力でしっかりとサポートできる能力を身につけます。

(DP3) 医学の進歩によって救命ができるようになり、また平均余命も伸びてきました。これからは、健康を損なっている人、病気やけがで心身に障がいを持っている人たちが地域でその人らしい生活を営めるように、保健・医療・福祉の各分野で活躍する専門職種が連携しあって、地域全体で支援していくことが重要です。その視点を持って作業療法の専門的な知識と技術を適切に提供できる能力を身につけます。

(DP4) リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

(DP5) 世界の、そして我が国の人口構成の変化、価値観の変化、文化や暮らしの変化、そして絶えず発展し続ける科学、そして医学。その中で私たちは常に人々の健康とより良い暮らしへのニーズに作業療法科学をもって応えていかなければなりません。その専門性をより広く、深く、科学的に追及していくために、能動的に研修と研究を通して自己研さんしていける能力を身につけます。